

堀江公番田館跡 ほり え こう ばん でん やかた あと

所在地 番田 57-13

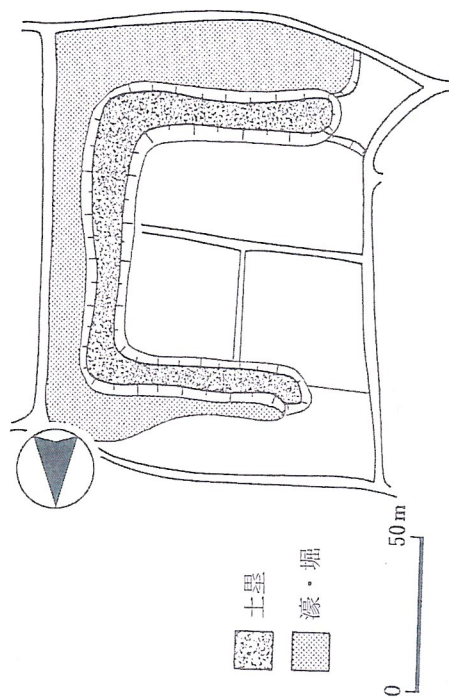
指定年月日 平成 3 年 11 月 1 日

管理者 番田区

中世の頃、坂井郡一帯を支配した堀江公一族の居館跡である。番田と重義の中間にあって、対岸の本庄館と同様竹田川の水利を握する要地にあった。

堀江氏は藤原氏の流れをくむ藤原利仁の子孫と伝わり、九世の孫實嗣が堀江郷名を姓とし、その始祖となった。鎌倉時代以来当地に土着した名族でありながら、文明（1470 年頃）以来朝倉氏に臣従した。番田に館を造ったのは堀江景經かげつねで、長祿年中（1460 年頃）といわれている。彼は朝倉敏景に従い 2,500 貫の領地を有し、その勢力を誇った。一時、兵庫郷井向村（坂井市春江町）にも居を移している。堀江氏は朝倉氏の重臣として加賀の一向一揆と対峙していたが、永祿 10 年（1567）堀江景忠の時に一揆勢への内通を疑われ、朝倉勢に攻められた。朝倉義景は 2,000 余騎を差し向け、上番一帯で激しい合戦を展開したが、なかなか勝敗はつかず、加戸本流院の仲介で和議が成立し、堀江父子は本庄館を出て能登に退いた。

堀江公番田館跡



堀江公番田館跡復元想定図